

外事月報

「特高月報」の姉妹誌

全11巻

★内務省警保局 編 (昭和13年8月→昭和19年5月)

●復刻版概要

A5判・上製・総3,900頁+表多数
揃本体価格195,000円
(揃定価199,800円)

十五年戦争中の外国人迫害問題等を探る！

戦犯問題・外国人俘虜問題・中国人朝鮮人強制連行及び強制労働などの基本資料として、今日未だ解明されざる権力の実態を照射する……

不二出版

荻野富士夫 (小樽商科大学教授) 解説 / '94年6月2点同時刊行！

●復刻版概要

A5判・上製・総1,300頁
揃本体価格60,000円
(揃定価61,800円)

★内務省警保局 編 (第1輯→第30輯 / 昭和10年→昭和19年)

外事警言察資料

全4巻

戦前期、政治警察の変遷を語る資料

石堂 清倫

『外事月報』と『外事警察資料』は、三〇年代後半期から敗戦までのわが国の政治警察の対象の変遷を語る記録としても重要な性質をもっていると思われる。一九三五年に全国組織としての日本共産党が消失してから、防共の重点はほとんど消失し、とくに一九三七年に「日支事変」が対中国全面戦争の端をひらいてから、政治警察の主力が防諜に向けられたのであって、『特高月報』が『外事月報』を分離させたのはそのことを語っている。すでに政治よりも直接の軍事に場面が転換してからは、防諜の対象が実際には日本国民一般に移っていることは、新しい研究を必要とするのである。

わが国の為政者は当初から日本社会変革の企てが、国内に根源をもつのでなく、もっぱら外国から、とりわけ革命ロシアから赤化思想が輸入されるために生ずるものと断定していた。対中国戦争が泥沼に陥り、国民のあいだに厭戦反戦の感情が生まれてくると、それをすべて外からの移入とすることが不可能になり、ついには国民の一人一人にスパイの嫌疑をかける破目に至った。

最大の矛盾が国内に自生してくることに反省が防諜外事警察の強化としか表現できなかった日本政治の宿命は、今回の復刻によって一層あきらかにされるように思われる。



(評論家)

戦時下の外国人迫害などをさぐる資料索引に

今井 清一

のちに高名な日本研究者となった英国人教師が、日中戦争中に英国船の船長に投函してもらった手紙の中で、「ふだんの通信ではこうは書けません。というの、この国の警察による監視は、信じ難いほどあらゆる分野に浸透しているからです。外国人すべてに対して厳重な監視の目を光らせている警察のスパイで国内は息づまるようです」と書いている。昔アメリカから買ってきた特高警察関係のマイクロフィルムを出して見ると、外事警察関係のルールはかなりある。だが細かな内規をはじめヨッフエの米日、中国占領地の治安、敗戦当時の状況など特定トピックの詳しい取捨記録が中心だった。

こんど復刻される内務省警保局外事課編の『外事月報』には、全国の警察に在外警察も加えた外事警察の日常的な取締り監視と弾圧の状況が詳しく載せられ、日中戦争以降の、限られてはいるが重要な時期の状況を、系統的、包括的に見ることができそう。日中戦争が長期化した一九三八年八月に『特高外事月報』が『特高月報』と改称される。それとともにその巻末に若干あった外事関係の事項が『外事月報』として独立し内容もずつと詳しくなる。だが、この月報が「極秘」とされ、入手が極めて困難だったためか、このことはあまり知られていない。

外国人に対する共感とその人権尊重の念に乏しい状況のなかで、私自身の反省であるが、研究者の関心もうすかったことも、その一因であろう。そこには、スパイの危険を理由に外国人を監視させ、さらに国民すべてを相互監視させようとした権力の政策があり、国民の排外意識を助長した。だが日本に強制連行された中国人の捕虜や労働者の問題とならんで、スパイを理由とした外国人宣教師の検査やこれを助けた日本人に対する弾圧をほりおこす研究などが、ようやくあちこちで生まれている。たいへんな努力で実現した『外事月報』の復刻が、戦時下の外国人迫害などを探るインデックスとして大いに利用され、新たな問題の提起にも役立つことを望みたい。

(横浜市立大学名誉教授)

『外事月報』内容見本

外事月報

概況

五月中に於ける外事警察の状況を概観するに、戦時特別措置関係に於て兵庫縣抑留所の移轉實施あり、即ち同縣第一乃至第四抑留所は開戦時抑留急務の必要より何れも神戸市中心部に設置したるも諸般の状況より夙に適當場所への移轉を計畫中の處、今回市街地を離れたる林間學校の施設を利用することとなり、本月二十六日第一、第三及第四抑留所（收容人員計一五九名）を一括移轉完了し、第二抑留所の收容人員（四〇名）は近く長崎縣抑留所に移送の豫定なり。

亞細亞關係に於ては本月中大阪、兵庫、福岡、長名の渡來あり所要の取締を加へ夫々目的地に收容して逃走する者續發の微あるを以て嚴に注意を要するの組織的諜報謀略容疑事件を検擧したる事例あり、きまのあるを認めらる。其の他警視廳に於ける犯罪査團バ・ハン一行の來朝等ありたり。

ソ聯關係に於ては本月三十日大使館員家族三十三依然として活潑なるものあり、彼等の旅行、連絡等ソ聯諜者の自殺事件、北海道廳に於ける外諜容疑者

戦時特別措置關係

一、抑留實施狀況

(一) 一般的狀況 最近抑留者中左記の通死亡者乃至解除者ありて本月末現在に於ける抑留人員調別表の如し。

而して死者に對しては兵庫縣に於て神戸市神戸區山本通一丁目五三英國人葬儀業チャールス・ミツチエルをして請負はしめ、抑留者中より適當數の代表者を參列せしめたる上葬儀を執行して之を鄭重に葬りたり。

死亡者		解除者	
国籍	氏名	国籍	氏名
米	M・D・ゲリー	英	W・H・ヒツクマン
英	W・H・ヒツクマン	米	H・H・ウィックマン
米	W・H・ヒツクマン	米	H・H・ウィックマン
英	W・H・ヒツクマン	英	W・H・ヒツクマン
米	H・H・ウィックマン	米	H・H・ウィックマン
英	W・H・ヒツクマン	英	W・H・ヒツクマン
米	H・H・ウィックマン	米	H・H・ウィックマン
英	W・H・ヒツクマン	英	W・H・ヒツクマン
米	H・H・ウィックマン	米	H・H・ウィックマン

国籍	氏名	年齢	性別	解除月日	解除事由	廳府縣
英	W・S・トムス	六一	男	四、一五	抑留事由解除せるに因り	兵庫縣

戦時特別措置關係

秘められた外事警察の実態を照射する資料

木坂順一郎

このたび『外事月報』と『外事警察資料』が復刻されることになった。まことによるこぼしいことである。

特別高等警察が反国家的・反政府的とみなした運動や団体および個人を徹底的に弾圧し、幾多の犠牲者を出したことや、運動側の資料の保存が困難であったという事情も加わり、各種の特高関係資料が社会運動研究の不可欠の資料として活用されてきたことは、よく知られている。また外事警察の実態については、既刊の『外事警察概況』と『外事警察報』および今回復刻される『外事警察資料』によって、特高が「防共」と「防諜」の観点から諸外国の動向と情報との程度調査・収集していたかを知ることが可能になった。さらにこれらの資料は、特高ひいては日本国家が、当時「敵国」または「敵国」とみなしていた諸外国の動向をどのように認識していたか、つまり戦時下日本国家の対外認識の一端を知る手掛かりを、私たちに与えてくれる。

しかし戦時中に特高が、「敵国」公館の公館員をはじめ日本在住の外国人、欧米諸国から帰国した日本人や日系二世などの動向にどのように対処していたかということについては、従来から不明な点が多かった。ところが今回復刻される『外事月報』には、これらの点はもとより、アジア・太平洋戦争中における交換船による帰国者への監視、連合国軍捕虜の使役、連行された中国人労働者の移入状況、同盟国人であったドイツ人やイタリア人への監視、郵便検閲や防諜犯罪などにあらわれた民心の動向など、いままでもあまり知られていなかった事実が詳細に記述されている。

特高警察研究の第一人者である荻野富士夫氏の編集・解説によって、二つの外事警察関係資料が復刻されるのを契機に、いままでもあまり手につけられていなかった問題の研究が発展することを心から期待したい。

(龍谷大学教授)

『外事警察資料』内容見本

「第18輯」『外事警察資料』の概況(下)より

エスペラント運動の概況(下)

三 本邦エスペラント運動團體

A、財団法人日本エスペラント學會(J.E.I.)

(Japan Esperanto-Institutio)

事務所 東京市本郷區元町一ノ三

明治三十九年東京に創立された日本エスペラント協會の後身として大正八年十二月創立されたものであつて、爾來日本に於けるエスペラント運動の中心機關として又國際的には萬國エスペラント協會(U.E.A.)の日本支部として日本を代表して居るものであつて大正十五年財団法人組織とせられた。

本學會の目的とする處は「エスペラントの普及、研究及其の實用化」であつて此のため

- (イ) エスペラントに関する各種研究調査
- (ロ) 機關誌「ラ・レヴィウオ・オリエンタ」(東洋報)(La Revuo Orienta)及月刊雜誌「エスペラント」の發行
- (ハ) エスペラント書籍の出版、取次、海外發行エスペラント圖書雜誌の取次
- (ニ) 海外友誼團體との連絡提携
- (ホ) エスペラント講習會の開催 等を其の事業とし、會員は左の五種に分たれる

三、本邦エスペラント運動團體

(イ) 普通維持員	學會維持費として年額二圓五十錢を負担するもの	美野田 琢磨
(ロ) 正維持員	學會維持費として年額三圓を負担するもの	望月 周三郎
(ハ) 賛助維持員	學會維持費として年額五圓を負担するもの	柳田 國男
(ニ) 特別維持員	學會維持費として年額十圓以上を負担するもの	小坂 雅二
(ホ) 終身維持員	一時金百圓以上を寄附せるもの	大井 學

本學會の役員は

會長一名	理事十名	監事二名	以上より成り理事及監事の任期は二年
評議員は一年である。理事長は理事會に於て互選し、評議員は維持員中より理事長選任とする。			
現在の役員は左の如くである。			

理事長	高層 敬義 兼 會長	理事	大石 和三郎	美野田 琢磨
理事	雨佐 肇	理事	秋田 徳三	望月 周三郎
同		同	上野 孝男	柳田 國男
同	鐵道局副參事	同	井上 萬壽藏	小坂 雅二
同	東大教授文學博士	同	黒板 勝美	大井 學
同	中央大學教授	同	川原 大吉郎	三石 五六
同	東京朝日新聞調査部長	同	土岐 善麿	清水 勝男
同	東京帝大教授醫學博士	同	西 成甫	鈴木 正夫
同	國民精神文化研究所員	同	藤澤 親雄	眞道

戦争犯罪と俘虜問題に重要な「外事」概念

茶園 義男

戦前「敵秘」とされ、終戦時灰燼に帰したと云われる『外事月報』が、連合軍俘虜の取扱いをめぐって東京裁判法廷に持ち出されたのは、昭和二二年(一九四七)一月七日のことである。

それからおよそ四十年、戦争犯罪と俘虜問題に関心を寄せた筆者が、是非とも見たいと望んだが果さず、それらを集約したと云われる『外事警察概況』(不二出版・一九八七刊)によって、その一斑を窺うのみであった。

そして更に十年、昨年『大東亜戦争俘虜関係外交文書集成』(不二出版)発行の運びとなり、巻末三頁に互つて、「普通寺俘虜収容所概況」(『外事月報』昭和一七年七月分)を、引用収載することを得た——不二出版編集部的好意である。

『外事月報』は、内務省警保局の内部文書である。内務省は、明治六年(一八七三)に設置され、庁舎は麹町区外桜田町(現霞が関二丁目)にあった。

旧ソ連邦のMVD(邦訳・内務省)ほどではなからうが、国民監視の重要機関である。幾多の機構改革はあつたが、この月報創始の昭和一三年(一九三八年)では、神社・地方・警保・土木・計画各局を持ち、文官(判任官以上)二千七百余名を擁していた。

このうち警保局には、保安・経済保安・警務・外事・図書五課があり、『外事月報』の編集主体は外事課で、その重要任務は「内地外人の検査、抑留・俘虜監視」であつた。なお、今般同時刊行の『外事警察資料』も、第十九輯以降は、この外事課の手になる。

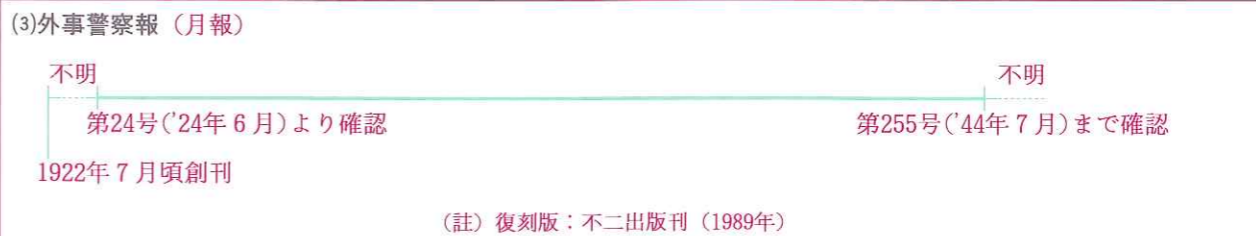
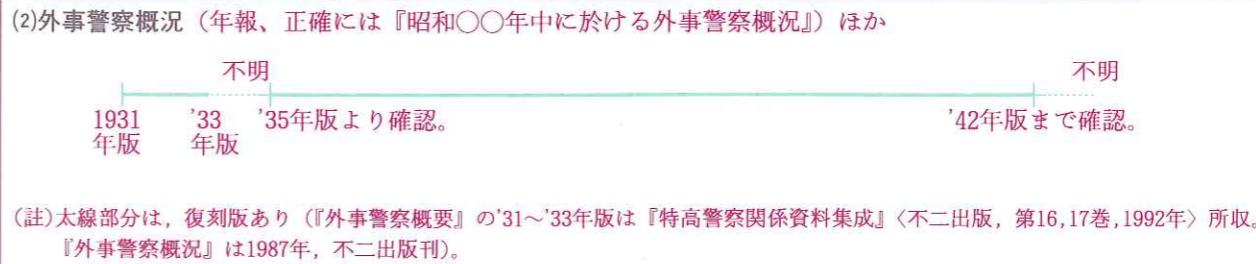
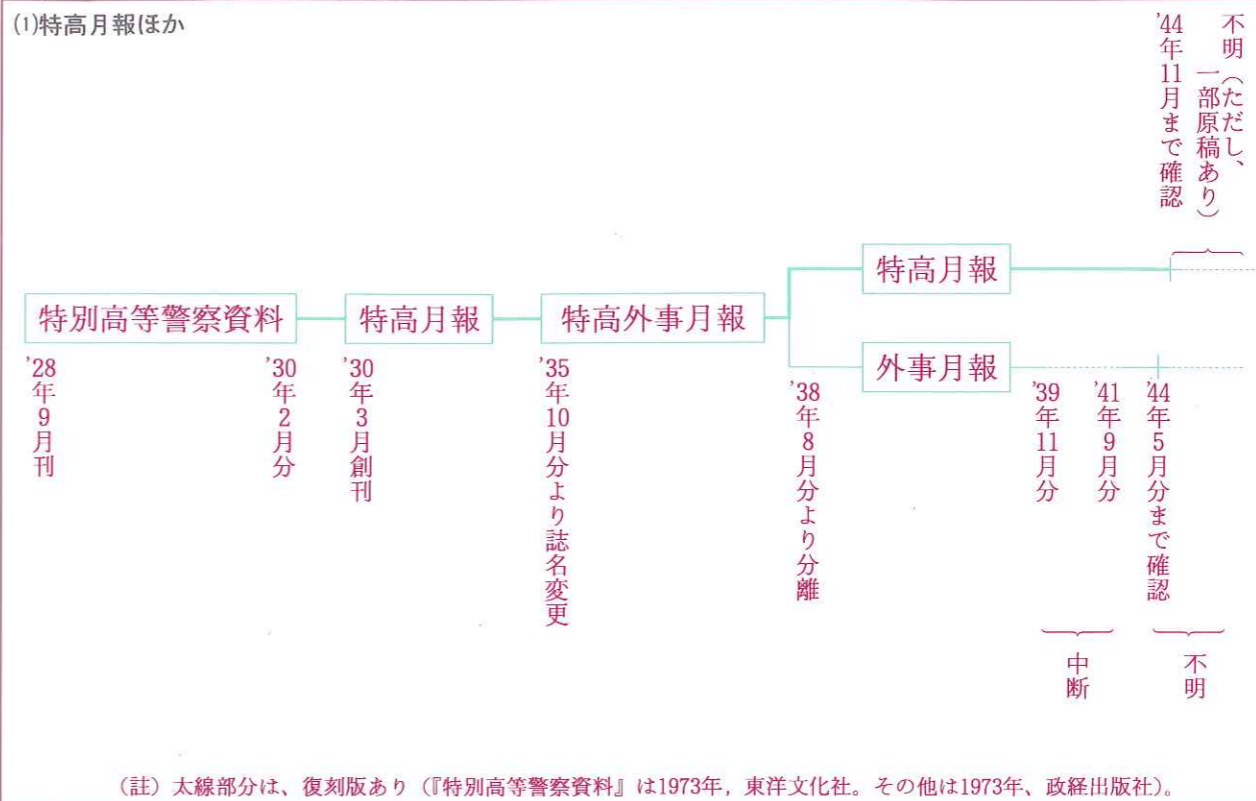
「外事」は、国際用語の「外交」と比すべきものでもなからうが、その言葉との交錯線上に、戦前日本の体質を窺い知る重要なキー・ワードの一つであろう。

(戦時教育研究者)

『外事警察資料』収録内容一覧

第1巻	フリー・メイソンリー	発行年月
第2輯	中国及滿洲国に於ける赤色運動	昭和10年11月
第3輯	コミンテルン第七回世界大会の概況	昭和10年12月
第4輯	独逸に於ける諜報及対諜機関	昭和11年1月
第5輯	米国に於ける共産主義運動	昭和11年1月
第6輯	軍事国情調査取縮資料	昭和11年2月
第7輯	國際共産青年同盟第六回大会の決議	昭和11年2月
第8輯	ソ聯邦内に於ける反ソ運動	昭和11年3月
第9輯	情報字概論	昭和11年5月
第10輯	シオン賢人会のプロトコル(イ)	(イ)
第11輯	同	(ロ)
第2巻	フリー・メイソンの本質と本邦に於ける状況	昭和11年6月
第13輯	仏蘭西に於ける人民戦線	昭和11年7月
第14輯	オリムピック大会と独逸警察	昭和11年11月
第15輯	ソ聯邦党及政府幹部暗殺陰謀事件の検討	昭和12年1月
第16輯	ソ聯邦新憲法	昭和12年2月
第17輯	エスペラント運動の概況(上)	昭和12年4月
第18輯	同	昭和12年6月
第3巻	最近に於ける米共産党の組織	昭和12年10月
第19輯	ソ聯邦反革命陰謀事件の検討	昭和13年3月
第20輯	仏蘭西人の看たるフリー・メイソン秘密結社	昭和14年4月
第21輯	世界大戦諜報活動	昭和14年6月
第22輯	同	昭和14年7月
第23輯	同	(其二)
第24輯	(不明)	昭和15年6月
第25輯	英国の反ナチ陰謀と白蘭に於ける英国諜報機関の活動状況	昭和15年12月
第26輯	藍衣社の防諜及諜報工作	昭和15年12月
第27輯	國際宣伝戦と米英の宣伝組織	昭和17年4月
第28輯	暗号の解説	昭和17年12月
第29輯	コミンテルン二十五年史	昭和18年12月
第30輯	中国の命運	昭和19年3月

内務省警保局刊行の逐次刊行物（外事警察関係）



内務省警保局刊行の叢書（外事警察関係）



○内務省警保局刊行物復刻版

既刊・近刊

（表示価格は全て消費税を含んでおりません）

内務省警保局編（昭和3年～昭和19年刊）
出版警察報 全40巻・補巻1・付録1

付録Ⅱ 出版警察関係資料 解説（由井正臣・赤沢史朗・北河賢三・豊沢 肇・総目次）
A5判・上製・函入・総27、950頁
揃定価475、000円
'82年4月配本完結〔復刻版〕

内務省警保局編（昭和10年～昭和15年刊）
出版警察資料 全15巻・付録1

付録Ⅱ 出版警察関係資料 解説（由井正臣・赤沢史朗・北河賢三・豊沢 肇・総目次）
A5判・上製・総8、538頁
揃定価147、000円
'82年9月刊〔復刻版〕

内務省警保局編（大正13年～昭和19年刊）
外事警察報 全67巻・別冊1

別冊Ⅱ 解説（石堂清倫・総目次・索引）
A5判・上製・函入・総約42、000頁
揃定価990、000円（配本毎90、000円）
'87年5月～'89年2月配本完結〔復刻版〕

内務省警保局編（昭和10年～昭和17年刊）
外事警察概況 全8巻

解題（石堂清倫）付き
A5判・上製・函入・総4、220頁
揃定価95、000円
'87年9月刊〔復刻版〕

内務省警保局編（大正14年～昭和19年刊）
映画検閲時報 全40巻

解題（牧野 守）付き
A5判・上製・函入・総23、200頁
揃定価520、000円
'85年1月～'86年5月配本完結〔復刻版〕

内閣大礼記録編纂委員会・内務省警保局・内務省衛生局刊
昭和大礼記録資料 全4巻・別冊1

別冊Ⅱ 解説（西秀成・荻野富士夫・藤野 豊）
B5判・上製・総2、512頁
揃定価95、000円
'90年10月刊〔復刻版〕

内務省警保局編（大正9年～昭和11年刊）
出版警察関係資料集成 全8巻

A5判・上製・函入・総4、070頁
揃定価120、000円
'86年4月刊〔復刻版〕

内務省警保局編（昭和11年～昭和13年刊）
海外よりの左翼宣伝印刷物集 全3巻

解題（石堂清倫）付き
A5判・上製・函入・総1、634頁
揃定価28、000円
'84年11月刊〔復刻版〕

内務省警保局編（昭和5年～昭和10年刊）
出版警察概観 全3巻・付録1

付録Ⅱ 出版警察関係資料 解説（由井正臣・赤沢史朗・北河賢三・豊沢 肇・総目次）
A5判・上製・函入・総2、462頁
揃定価75、000円
'88年4月刊〔復刻版〕

内務省警保局編
昭和政党政治関係資料 全4巻

伊香俊哉・倉敷伸子 解説
A5判・上製・函入・総1、670頁
揃定価40、000円
'88年7月刊〔復刻版〕

特高警察関係資料集成 全30巻・別冊1

- 1 共産主義運動 1～6巻
 - 2 無産政党運動 7～8巻
 - 3 労働運動 9巻
 - 4 農民運動 10～11巻
 - 5 水平運動・在日朝鮮人運動 12巻
 - 6 国家主義運動 13巻
 - 7 外事警察関係 15～17巻
 - 8 出版警察関係 18巻
 - 9 特高関係重要資料 19～21巻
 - 10 特高関係例規類 22～24巻
 - 11 特高関係各種会議 25～26巻
 - 12 特高関係逐次刊行物 27～30巻
- 〔別冊〕特高警察関係資料解説

荻野富士夫 編・解題
A4判・上製・総14、300頁
揃定価775、000円
'91年6月～'94年12月配本完結予定〔復刻版〕
〔別冊〕B5版・400頁・25、000円〔分売可〕

外事月報

全11巻

外事警察資料

全4巻

編集発行

内務省警保局

(昭和13年8月より、『特高外事月報』は『特高月報』と『外事月報』に分離して刊行)

内容

- 第1巻 昭和13年8月～12月
- 第2巻 昭和14年1月～5月
- 第3巻 昭和14年6月～10月
- 第4巻 昭和16年9月～12月
- 第5巻 昭和17年1月～4月
- 第6巻 昭和17年5月～7月
- 第7巻 昭和17年8月～11月
- 第8巻 昭和18年1月～4月
- 第9巻 昭和18年5月～8月
- 第10巻 昭和18年9月～12月
- 第11巻 昭和19年1月～5月

複製版概要

A5判・上製・総3、900頁＋表多数

1015,000円
(揃定価106,610円)

解 説

荻野富士夫

欠号 (本複製版に収録できなかった号)

昭和15年11月／昭和16年8月／昭和17年12月／
昭和18年7月／昭和18年11月／昭和19年1月／
昭和19年4月／同年6月以降

編集発行

内務省警保局

(第1輯Ⅱ昭和10年11月から、第30輯Ⅱ昭和19年3月までを、逐次刊行)

内容

- 第1巻 第1輯～第11輯
- 第2巻 第12輯～第18輯
- 第3巻 第19輯～第26輯
- 第4巻 第27輯～第30輯

複製版概要

A5判・上製・総1、300頁

90,000円
(揃定価91,800円)

解 説

荻野富士夫

欠 号

第24輯

近刊予定 三書房版の欠落を補う新資料を発見!

社会運動の状況

大正15年版 全2巻
昭和2年版

編集発行 内務省警保局

内容

第1巻Ⅱ大正15年中ニ於ケル社会主義運動ノ状況ノ労働運動ノ状況ノ農民運動ノ状況ノ水平運動ノ状況ノ在日朝鮮人ノ状況ノ結社労働農民党並其ノ他ノ無産政党ニ関スル調査
第2巻Ⅱ昭和2年中ニ於ケル社会主義運動ノ状況ノ労働運動ノ状況ノ農民運動ノ状況ノ水平運動ノ状況ノ在日朝鮮人ノ状況ノ無産政党運動ノ状況

揃定価 50,000円

本カタログ中の表示価格は、全て消費税を含んでおりません。

※弊社は注文制です。お近くの書店へご注文ください。

不二出版

東京都文京区向丘一丁目二二
TEL 〇三三三八二四四三三
FAX 〇三三三八二四四六四
振替 〇東京〇六一九四〇八四